

『あなたはご存じです』 (ヨハネの福音書 21 章 15-25 節) 2023.5.14.

<はじめに> ティベリア湖畔での朝食が終わったところ、イエスはシモン・ペテロを連れ出され(20)、「あなたは私を愛していますか」と3度問われます。その問い掛けにペテロは心を痛めつつ(17)答えます。彼はどんなことに気付いたのでしょうか。

I 心を痛めるペテロ(15-17)

①ヨハネの子シモン(15-17)

ここでイエスは生来の名をフルネームで呼ばれます。ペテロはイエスが付けた名です(1:40-42)。その名で呼ぶことで、ペテロをイエスの出会いの時、弟子として召され、すべてを捨てて従ったあの日に立ち返らせます。原点回帰は物事を立て直す基本です。

②この人たちが愛する以上に(15)

「この人たち」とは弟子の仲間たちです。かつて十字架の前夜の食後に、ペテロは彼らを引き合いにして、自分の決意を表しました(マタイ 26:33-35)が、実際は彼も他の弟子たちもイエスを捨てて逃げました。このイエスの問いは、その時を彷彿と思い起こさせます。

③三度、問われる(15-17)

「わたしを愛していますか」の問いをイエスが3度繰り返されたことから、ペテロはイエスを3度「知らない」と否んだこと(18:17-18,25-27)に改めて心を刺されます。イエスもその彼を見つめられていました(ルカ 22:61)。二人だけが分かる会話でイエスは気付かせます。

II 問われるイエス(15-17)

①心を問う

消し去りたいあの日のことをペテロに気付かせたうえで、イエスは彼の言動を責めず、心を問い直されます。最初の2回は至高の愛(アガパオー)で、3度目はペテロが応え得る友愛(フィレオー)で問われます。愛する心が彼の中にあるかをイエスは確認されます。

②今を問う

人は過去を引きずり、縛られがちで、心機一転踏み出すことは至難です。「愛していますか」は、過去よりも今に関心が注がれた問い掛けです。イエスはペテロの心中にくすぶる愛を呼び覚まそうと問われ、彼もイエスが心中の愛を汲んでくださる、と期待を表します。

③「あなたはすべてをご存じです」

あの時は真剣であったことも、言い過ぎたことも、失敗したことも、そして今も精一杯主イエスを愛していることも、ペテロは自覚しました。ただ、それを主張する自信はありません。彼は、すべてご存じの上で彼を引き上げようとされるイエスにすがり、告白しました。

III 言い諭すイエス

①新しい役割(15-17)

子羊・羊はイエスが愛し、呼び集められた多種多様な人々、飼う・牧すは成長へと守り養うことです。今までペテロは他の弟子たちより先んじようと生きて来ました。しかし、これからは彼らをイエスに倣って愛し育てる役割を委ねられました。主の信頼を回復した証しです。

②新しい道筋(18-19)

これまで自分の望むままに歩んで来たペテロに、イエスはこれから辿る道筋は異なると告げられます。それはイエスの十字架への歩みを思い起こさせます。私にも負うべき自分の十字架があります(ルカ 9:23-24)。否まずに、主からのものとして受け取りますか。

③変わらない導き(19-23、13:36-38)

厳しく辛い場面が予想されるこれからの歩みには、他の仲間とは違っていても、先立つイエスの足跡が必ず残されています。姿は見えずとも、確かにそこを通られ、今も語り掛け、導かれる主イエスを見出し、その歩みについて来るのようにと、私たちをも招かれます。

<おわりに> これで記者ヨハネが見たイエスの物語は締め括られます。しかし、イエスが行われたことは、他にもたくさんあります(25)。私たちの日々の歩みの中にも、イエスは生きておられ、語り掛けられるからです。イエスの物語を今も私たちは綴っている最中なのです。(H.M.)